

川崎重工業株式会社

Company Profile

Kawasaki Heavy Industries, Ltd.

www.khi.co.jp

INDEX

- 2 社長メッセージ
- 3 グループミッション
- 4 グループビジョン2030
- 5 沿革
- 7 Kawasaki Hydrogen Road
- 9 航空宇宙システム
- 11 車両(川崎車両株式会社)
- 13 エネルギー・環境ソリューション
- 15 船舶海洋
- 17 精密機械
- 19 ロボット
- 21 パワースポーツ&エンジン(カワサキモータース株式会社)
- 23 研究開発
- 25 国内生産拠点・営業拠点
- 27 海外生産拠点
- 29 社会貢献
- 30 Information

社会のニーズを的確に捉え、
スピーディに適應する企業グループへ



代表取締役社長執行役員

橋本 康彦

新興国における急速な産業の発展や人口増加などに伴う環境悪化リスクの懸念、先進国における高齢化の進展による労働人口の減少に加え、航空・物流網の発達やインターネットの普及によりグローバル化が進む中で生じた新型コロナウイルスのパンデミックは世界に大きな影響を与えました。そして、わたしたちはライフスタイルやビジネススタイルなど、従来の価値をあらためて問い直さなければいけない機会に直面しています。

当社グループは1896年の創立以来、120年以上にわたり、陸・海・空の幅広い事業分野で、ものづくりを通じて高い技術・知見を培ってきました。それぞれの時代において、最先端の技術をベースにさまざまな価値を提供してきましたが、常に世界の人々の多様な要望に応える製品・サービスを時代の変化に合わせて提供し、お客様と社会の可能性を切り拓く力になることが、当社グループの掲げるミッション「世界の人々の豊かな生活と地球環境の未来に貢献する"Global Kawasaki"」の実現に繋がるものと確信しています。

今後も、新たな時代の社会課題を的確に捉え、お客様の「期待と信頼」に応じて課題を解決していくためには、世の中の変化にタイムリーに応え、新たな付加価値を届けることが必要と考えています。そこで、2030年に目指すべき企業像として、「つぎの社会へ、信頼のこたえを」というビジョンを制定しました。この言葉には、「刻々と変わる社会に、革新的なソリューションをタイムリーに提供し、希望ある未来をつくっていく」、「さまざまな枠を超えてスピーディに行動・挑戦することで、自らの可能性を上げ成長し続けていく」という意味が込められています。

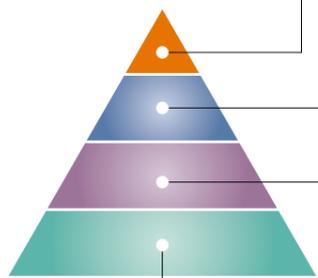
常にお客様とともに迅速にソリューションを考え、行動していくことで、自分たちが社会の「カワる、サキへ。」を体現するとともに、これまで以上にグローバル展開を進めて事業の成長を図ることで、コンプライアンスや企業の社会的責任(CSR)を果たしながら、世界中の人々から信頼される企業を目指してまいります。引き続きのご支援を賜りますようお願い申し上げます。



Powering your potential

川崎重工グループは、航空宇宙システム、エネルギー・環境プラント、精密機械・ロボット、交通・輸送という多彩な領域で高度な技術力を発揮するとともに、領域を超えたシナジーの追求により、新たな価値を創造。地球環境との調和を図りながら、より豊かで美しい未来社会の実現を目指します。

ミッション
ステートメントの
構成



グループミッション

世界の人々の豊かな生活と地球環境の未来に貢献する
“Global Kawasaki”

川崎重工グループは、広汎な領域における高度な総合技術力によって、地球環境との調和を図りながら、豊かで美しい未来社会の形成に向けて、新たな価値を創造します。

カワサキバリュー

- 多様なお客様の要望にこたえる
- テクノロジーの頂点を目指す
- 独自性・革新性を追求する

グループ経営原則

- ① 高機能・高品質で安全な製品・サービスを世界の人々に提供する。
- ② 社会的責任を認識し、地球・社会・地域・人々と共生する。
- ③ 労使の信頼を企業文化とし、グローバルに“人財”を育成・活用する。
- ④ “選択と集中”、“質量量従”、“リスクマネジメント”を指針とし企業価値向上を図る。

グループ行動指針

- ① グローバルで長期的な視点に立つ。
- ② 困難な課題に挑戦する。
- ③ 目標の実現に向け、最善を尽くす。
- ④ 社会と人々から信頼される企業人となる。
- ⑤ 自主独立のプロフェッショナルとなる。
- ⑥ 誇りと喜びを共有する、カワサキのよきメンバーとなる。

グループビジョン 2030

つぎの社会へ、信頼のこたえを Trustworthy Solutions for the Future

川崎重工は、刻々と変わる社会に、革新的なソリューションをタイムリーに提供し、希望ある未来をつくっていきます。そして、さまざまな枠を超えてスピーディに行動・挑戦することで、自らの可能性を拓げ成長し続けていきます。

Frontier

挑戦のDNAで
フロンティアを切り拓く

New Values

世界が直面する課題に
革新のこたえを

Cross Over

枠を超え、成長し続ける
創造的な挑戦者に

【 Kawasakiが注力する3つのフィールド 】

安全安心 リモート社会

医療・ヘルスケア、災害対応、
新しい働き方・暮らし方の提案



手術支援ロボット「hinotori™」
(メディカロイド)



ヘルスケア事業
(ロボット検査システムを用いたPCR検査サービス)

近未来モビリティ

新しいモビリティによる
人とモノの移動を変える



VTOL無人機 K-RACER®



配送ロボット FORRO™

エネルギー・ 環境ソリューション

水素をはじめとする
脱炭素化への取り組み



世界初の液化水素運搬船と液化水素受入基地
「すいそ ふるんていあ」と「Hy touch 神戸」



大型液化水素運搬船
(イメージ図)

受け継がれてきた技術力のDNAを明日へ、未来へ



創業者 川崎正蔵



初代社長 松方幸次郎



1906年 わが国初の潜水艇を完成



1911年 国産化第1号 蒸気機関車完成



1922年 当社初の航空機 (乙式一型偵察機)完成



1926年 東京市の永代橋を製作



1933年 「六甲号」乗用車の 製作販売を開始



1934年 中国に「あじあ号」用 パシナ形蒸気機関車を納入



1941年 「飛燕」戦闘機の 生産を開始

- 1878年 川崎正蔵が西洋型船の建造を目的として「川崎築地造船所」(東京)を開設(当社の創業)。1886年には、事業規模を拡大して「川崎造船所」(神戸)を開設しました。
- 1896年 (株)川崎造船所を創立。松方幸次郎が初代社長に就任しました。
- 1906年 兵庫工場を開設。機関車、貨客車、さらに橋桁の製作を開始しました。この年、造船所では船の主機関として蒸気タービンの製造も開始しています。
- 1918年 兵庫工場に飛行機科を設置し、航空機の製造に着手。その後、新たに航空機工場を開設、日本初の全金属製飛行機を完成させ、今日の礎を築くこととなります。
- 1919年 船舶部門が川崎汽船(株)として設立。
- 1928年 兵庫工場が川崎車輛(株)として設立。
- 1937年 飛行機部門が川崎航空機工業(株)として設立。
- 1939年 川崎重工業(株)と社名変更。
- 1950年 製鉄部門が川崎製鐵(株)として設立。事業の拡大とともに、車両、航空機、製鉄部門が相次いで独立し、それぞれの分野で確固たる地歩を築きました。
- 1966年 ボイラ、粉碎機、運搬機械などのメーカーであった横山工業(株)を合併。
- 1969年 川崎重工・川崎車輛・川崎航空機の3社が再び合併。陸・海・空に事業を展開する総合システムエンジニアリング企業としての基盤を固めました。
- 1972年 汽車製造(株)を合併。鉄道車両分野でわが国トップメーカーの座を確保するとともに、都市ごみ焼却プラントの分野にも事業を広げました。



1969年 国産初の産業用ロボット「川崎-ユニメット2000」誕生



1972年 モーターサイクル「Z1」を発売



1977年 ガスタービン発電設備PU200を初納入



1978年 セメントプラント(アルジェリア)



1979年 BK117型ヘリコプター初飛行



1981年 わが国初のLNG運搬船を引渡し



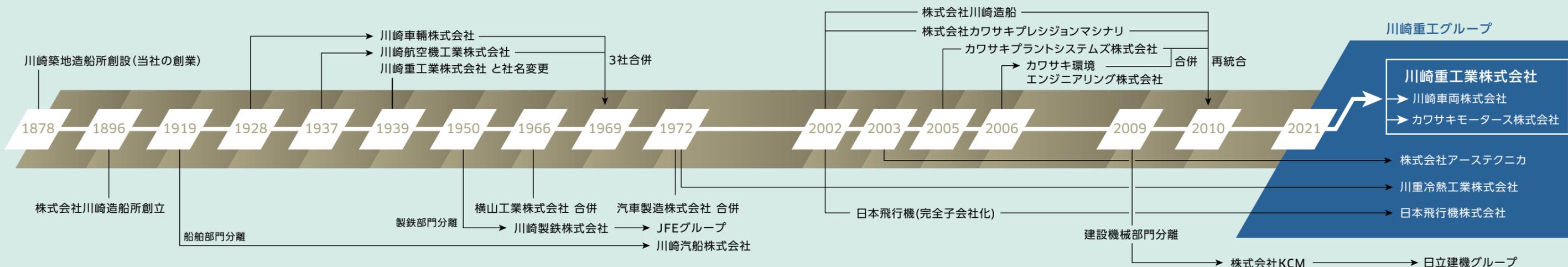
1991年 英仏海峡海底鉄道トンネル掘削機、掘削に成功



1998年 明石海峡大橋開通

- 1975年 わが国二輪車・四輪車業界のトップを切って、アメリカで二輪車の現地生産を開始。さらに、1986年からは鉄道車両もアメリカで現地生産を開始しました。
- 1989年 世界最長の吊橋(当時)、明石海峡大橋主塔工事を受注(1998年開通)。
- 1991年 英仏海峡海底鉄道トンネルの掘削で、2基のトンネル掘削機が予定より8カ月も早く同トンネルを貫通させました。
- 1996年 創立100周年。
- 2001年 社内カンパニー制と執行役員制を導入。
- 2002年 船舶部門が(株)川崎造船として、精機部門が(株)カワサキプレジジョンマシナリとして設立。
- 2003年 破碎機事業部門が(株)アーステクニカとして設立。((株)神戸製鋼所との統合)
- 2005年 プラント部門がカワサキプラントシステムズ(株)として設立。
- 2006年 環境部門がカワサキ環境エンジニアリング(株)として設立。
- 2007年 カワサキプラントシステムズ(株)とカワサキ環境エンジニアリング(株)が合併。
- 2010年 川崎重工、川崎造船、カワサキプレジジョンマシナリ、カワサキプラントシステムズの4社が再統合。
- 2020年 デイビジョン制を導入。
- 2021年 鉄道車両部門が川崎車両(株)として設立。モーターサイクル&エンジン部門がカワサキモータース(株)として設立。

川崎重工はいま、多彩な技術を保有する企業集団として 絶え間ない歩みを続けています。



クリーン水素サプライチェーンの実現へ

水素社会の未来を切り拓く カワサキのテクノロジー

水素は、様々な物質から生み出すことができ、エネルギーとして利用する際にCO₂を排出しない究極のクリーンエネルギーです。発電、自動車など運輸、産業など幅広く活用でき、貯蔵・運搬も可能です。気候変動と資源枯渇、エネルギーの安定的確保という課題解決に貢献します。川崎重工は、蓄積された技術力・総合力で、水素を「つくる」「はこぶ」「ためる」「つかう」といった“水素サプライチェーン”に必要な主要機器をシームレスに提供できる強みを活かしながら、新たなインフラ技術の開発・製品化を進めています。私たちは、水素を中心としたより豊かな暮らしの実現に向けて、これからも取り組んでいきます。

Hydrogen Road

水素エネルギーがもたらす新しい未来を、世界中の人々へ。Kawasakiグループの総合力を結集した取り組みは、すでにはじまっています。



川崎重工、岩谷産業、電源開発、シェルジャパンの4社は、技術研究組合CO₂フリー水素サプライチェーン推進機構〔略称：HySTRA（ハイストラ）〕を2016年2月に設立し、NEDO*の助成事業『未利用褐炭由来水素大規模海上輸送サプライチェーン構築実証事業』を開始しました。2020年に褐炭ガス化水素製造設備と荷役基地を建設し、2021年には液化水素運搬船の建造が完了、翌2022年には、褐炭由来水素を含む豪州で製造した液化水素の日豪間海上輸送ならびに陸上基地との荷役作業のパイロット実証を無事完遂しました。現在も、神戸を拠点に将来の液化水素のエネルギー利用に向けた実証研究に取り組んでいます。

* 国立研究開発法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構

2021年8月には、NEDOのグリーンイノベーション（GI）基金事業として「液化水素サプライチェーンの商用化実証」が採択されました。当社100%子会社として設立した日本水素エネルギー（JSE）を幹事会社とし、ENEOS、岩谷産業の3社で共同提案したもので、液化、出荷、海上輸送、受入までの一貫した商用規模の国際間液化水素サプライチェーン実証を行います。

JSEは、水素サプライチェーンに係るオペレーションや事業ノウハウを集約し、商用化実証を進めるとともに、商用化チェーンを迅速に立ち上げることを目指しています。

* 採択時、現在は66.6%

水素サプライチェーンにおけるカワサキのテクノロジー



水素液化システム

水素をつくる

-253℃の極低温を実現

水素をエネルギーとして本格的に利用するためには、大量の水素が不可欠です。-253℃の極低温で液化し体積を縮小することで、海外から大量輸送が可能になります。川崎重工は、産業用では初となる純国産独自技術の水素液化システムを開発・上市*しました。さらに液化機の大型化・高効率化にも取り組んでいます。

*：2020年6月10日 当社プレスリリース「国内メーカー製初の「水素液化機」を販売開始」



液化水素運搬船「すいそ ぶろんていあ」

水素をはこぶ

1/800 に体積を縮小して輸送

-253℃の極低温で液化し体積を1/800に縮小した液化水素を、安全に効率的に海上輸送するため、世界初の液化水素運搬船を建造しました。2022年2月、この運搬船を使った日豪間での海上輸送パイロット実証を無事完遂しました*。今後、さらなる大型化に取り組んでいきます。

*：NEDO助成事業「未利用褐炭由来水素大規模海上輸送サプライチェーン構築実証事業」



液化水素貯蔵タンク

水素をためる

2,500m³の液化水素貯蔵設備

水素を日本国内で利用していくには、液化水素の貯蔵タンクや輸送用のコンテナが必要です。川崎重工には、ロケット燃料用として長期にわたる液化水素の運用実績があり、現在は真空断熱構造を持つ、日本最大の2,500m³級液化水素貯蔵タンクを開発し、神戸市沖合の神戸空港島北東部に設置しました。今後、さらなる大型化に取り組んでいきます。



水素ガスタービン

水素をつかう

100% 水素による発電

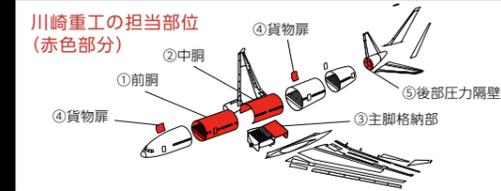
利用時にCO₂が発生しない水素をガスタービンの燃料とすることでクリーンな発電の実現を目指しています。燃焼速度が速く安定燃焼が難しいという水素の特性に合わせた燃焼技術の開発により、天然ガス100%から水素100%まで連続的かつ自在に混合比を操作できるガスタービンの開発に成功し、神戸市ポートアイランドにて実証運転と並行して更なる性能向上を進めています*。

*：NEDO助成事業「水素社会構築技術開発事業」において実施



Aerospace Systems

航空宇宙システム



ボーイング777-8/-9の国際共同開発・生産に参画
川崎重工は、ボーイング社の新型旅客機である「777-8/-9」の国際共同開発・生産にパートナー企業として参画し、前部胴体パネル・中部胴体パネル・主脚格納部・後部圧力隔壁などを担当しています。
製造においては、3種類の当社製ロボットを組立ラインに投入することにより、大幅な自動化と生産性の向上を実現しています。



T-4「ブルーインパルス」*1



ボーイング787ドリームライナー
(提供:Boeing)



P-1固定翼哨戒機*2



C-2輸送機*3



H145//BK117 D-3型ヘリコプター



CH-47J/JA型ヘリコプター*4

最先端のテクノロジーを集約し

空と宇宙のさらなる高みを目指す。

ボーイング777-9
(提供:Boeing)

川崎重工は、1918年に航空機製造事業を発足して以来、日本を代表する機体メーカー・航空エンジンメーカーとして、幅広い事業を展開しています。

航空宇宙事業では、P-1固定翼哨戒機およびC-2輸送機など、防衛省向けの航空機の開発・製造を行っているほか、ボーイング787など民間航空機の国際開発・生産プロジェクトにも参画しています。また、ベストセラー機・BK117をはじめとしたヘリコプター、H-IIA、H-IIB用ロケットフェアリングなどの宇宙機器も手がけています。

エンジン事業では、1954年にジェットエンジンのオーバーホール事業を開始して以降、ヘリコプター用エンジンの国産化、民間旅客機用ジェットエンジンの国際共同開発への参画などにより、確かな技術力でエネルギー効率向上や環境負荷低減に寄与しています。



H3ロケット衛星フェアリング
(提供:JAXA)



RTM322ターボシャフトエンジン
(MCH/CH-101ヘリコプター用)



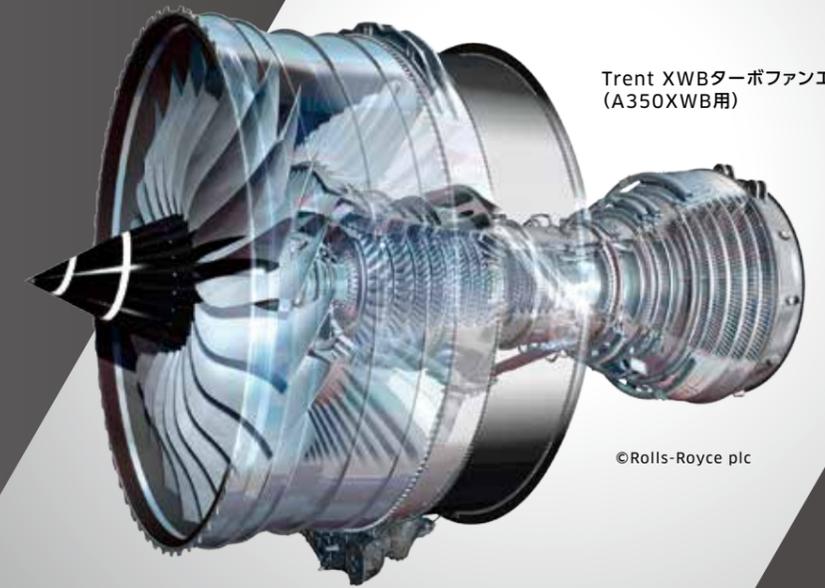
国際宇宙ステーション「きぼう」
(提供:JAXA/NASA)



PW1100G-JMターボプロップエンジン
(A320neo用) 出典:JAEC



T55-K-712Aターボシャフトエンジン
(CH-47JAヘリコプター用)



Trent XWBターボファンエンジン
(A350XWB用)

©Rolls-Royce plc

*1 出典：防衛省航空自衛隊ホームページ (https://www.mod.go.jp/asdf/equipment/blueimpulse/T-4_Blueimpulse/index.html)
*2 出典：防衛省海上自衛隊ホームページ (https://www.mod.go.jp/msdf/equipment/aircraft/patrol/p-1/)
*3 出典：防衛省航空自衛隊ホームページ (https://www.mod.go.jp/asdf/equipment/yusouki/C-2/index.html)
*4 出典：防衛省航空自衛隊ホームページ (https://www.mod.go.jp/asdf/equipment/air/index.html)

最高水準の技術で、お客様のニーズに応える
鉄道システムメーカーへ。

Rolling Stock

車両 (川崎車両株式会社)

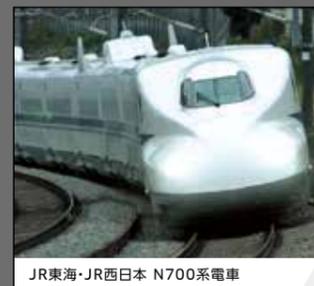
川崎重工グループは、1906年に鉄道車両製造を開始して以来、常に技術の先端を歩みながらその発展と近代化の一翼を日本のトップメーカーとして担ってきました。南海鉄道向け木製電動客車から始まった事業は、電車・貨車・機関車・ディーゼル機関車など数多くの車両や各種鉄道システムに拡大し、100年以上の歴史とともに蓄積された優れた技術と高い生産性を備えた2つの国内生産拠点と、北米の2つの生産拠点からさまざまな鉄道車両を世界各地へ送り出しています。これからも最高水準の技術で、お客様のニーズに応える鉄道車両システムメーカーとして社会に貢献していきます。



ニューヨーク市交通局 R211電車/米国



メトロノース鉄道 M-8電車/米国



JR東海・JR西日本 N700系電車



小田急電鉄 5000形電車



神戸市交通局 6000形電車



台湾高速鉄道 700T型電車/台湾



シンガポール陸運庁 T251電車



JR四国 2700系気動車



JR貨物 DD200形式ディーゼル機関車



神戸新交通 3000形電車

JR東日本 E5系電車

卓越したものづくりとエンジニアリングで
多様なニーズに応える。

川崎重工は、ガスタービンやガスエンジンをはじめとする世界最高レベルのコアコンポーネントを核としたエネルギーソリューションシステムを提供し、電力・熱エネルギーの安定供給と環境負荷の低減、低炭素・脱炭素社会の実現に貢献しています。

また、各種産業用プラント・産業用機械、都市ごみ焼却施設をはじめとする環境事業設備や極低温技術を駆使したLNG・水素タンクなどの分野でグローバルに事業を展開しています。

発電用ガスエンジン

産業用ガスタービン

GTG (Gas To Gasoline) プラント

Energy & Environmental Solution

エネルギー・環境ソリューション



エネルギー分野



産業用ガスタービン(ローゼンレーション用、非常用発電設備用)



アスファルトピッチ焼きボイラー・タービン発電設備(U-KACCボイラー)



発電用ガスエンジン



蒸気タービン

産業インフラ分野



FLNG(洋上液化・貯蔵・出荷設備)用ボイラー



天然ガス圧縮設備



LNG貯槽(左)、LPG貯槽(右)



フェロニッケルプラント

環境・リサイクル分野



ごみ処理発電施設



ごみ焼却・バイオガス複合施設



石炭搬送用スタックリクレーマ



単段ターボプロフ(MAGターボ)



海の未来を切り拓く

高付加価値船と推進システムを提供



AUTOMATION
ZERO EMISSION

Shipbuilding & Marine Propulsion System



船舶海洋

造船分野

川崎重工の歴史は、1878年の川崎築地造船所に始まり、それ以来、「日本初」と形容される数々の船舶を建造してきました。国内では神戸と坂出（香川県）でLPG運搬船やLNG運搬船、潜水艦などの高付加価値船を建造するとともに、中国では南通と大連で、ばら積み船・大型コンテナ船などを建造しています。また、脱炭素社会に向けて、大型液化水素運搬船に取り組んでいます。船用推進システム分野では世界有数の推進システムインテグレータとしてコアコンポーネントを最適に組み合わせたパッケージを推進システムとして提供しています。海洋分野における安全と安心、また地球環境の保全と改善に貢献しています。



液化水素運搬船「すいそ ふろんていあ」



大型液化水素運搬船



LNG運搬船

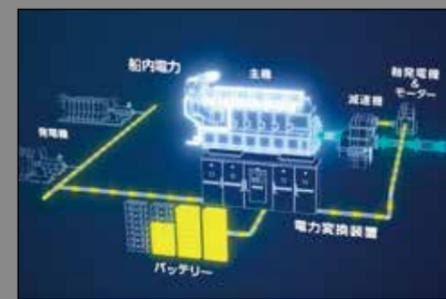


潜水艦



自立型無人潜水機 (AUV)

船用推進システム分野



環境対応推進システム



安全離着岸支援システム



船用ガスエンジン (カワサキグリーンガスエンジン)



安全複合低環境負荷システムK-ECOS搭載
船用2サイクルエンジン



旋回式スラスタ「レックスペラ」



サイドスラスタ

油圧システムの総合ソリューションを提供し
世界のモノづくりを支え続ける。



油圧モータ「M7V」(左) / 油圧ポンプ「K8V」(右)

Precision Machinery



精密機械

川崎重工は、油圧業界随一の規模と生産設備を備え、世界トップシェアを誇る油圧ショベル用ポンプや旋回モータ、コントロールバルブ等各種バルブをはじめとした油圧機器および、油圧と制御の優れた技術を活かした製鉄・鍛圧をはじめとする各種産業機械用システム・油圧装置、舵取機・甲板機械などの船用油圧装置を中心に世界のユーザーへ供給しています。

現在、西神戸工場をマザーファクトリーに、日本、イギリス、アメリカ、中国、韓国、インドの世界6極体制を確立し、急速なグローバル化に対する機動力のある対応を実現、Kawasakiブランドの油圧機器・システムを世界に広げています。常に新しい技術と製品の開発に取り組み、品質向上と製品の安定供給で、世界の産業を支え続けます。



電動油圧舵取機



ウインドラス



エコサーボ アヴァント



斜板形アキシャルピストンポンプ K7VGシリーズ



高圧水素減圧弁



パイロットバルブ PVシリーズ



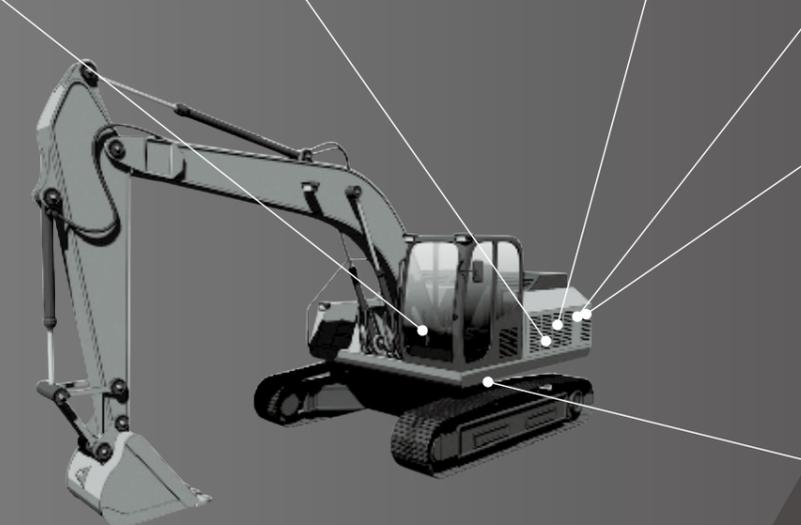
マルチコントロールバルブ KMXシリーズ



ロードセンシング用コントロールバルブ KLSVシリーズ



ロードセンシング用斜板形アキシャルピストンポンプ K3VLSシリーズ



斜板形アキシャルピストンポンプ K7Vシリーズ



減速機付斜板形アキシャルピストンモータ M5X-RGシリーズ

モノづくりから医療まで、
カワサキロボットは人と社会の
新しい未来をつくれます。

Robot

ロボット



世界一のロボット生産国である日本において、最初に産業用ロボットの生産と販売を始めたのが川崎重工です。1969年以来、川崎重工は、リーディングメーカーとして、自動車業界や電機・電子業界をはじめとするさまざまな業界向けに、スポット溶接、アーク溶接、組立・ハンドリング、塗装、パレタイズなど多種多様なロボットを供給し、国内外の産業発展に貢献してきました。

産業用ロボットのパイオニアとして積み重ねてきた実績とシステムエンジニアリング技術を駆使して、人共存・協調ロボットや医療用ロボットなどの新分野を拡大し、人とロボットの未来社会を創造していきます。

双腕スカルロボット「duAro」シリーズ



「duAro」は、人の両腕の動きをそのまま再現できる当社初の双腕ロボットで、人が行う作業を一人一人分のスペースで簡単に置き換えることができます。使い易さを徹底的に追求し、教示を簡単にして実用性を高めたほか、オプションでアーム本体とコントローラを分離することも可能なため、現場のレイアウトに最適した形で導入できます。さらに、衝突検知機能などの安全機能を装備しており、作業者のすぐ横に設置しても安心して協働作業をさせることができます。

スポット溶接用ロボット BXシリーズ



小・中型汎用ロボット RSシリーズ



大型汎用ロボット BXPシリーズ



超大型汎用ロボット Mシリーズ



アーク溶接ロボット BAシリーズ



防爆塗装用ロボット Kシリーズ



パレタイズロボット CPシリーズ



ピッキングロボット YFシリーズ



ウェハ搬送ロボット



医療ロボット MSシリーズ

Powersports & Engine

もっと楽しもう！川崎重工グループのシナジーによる高い技術力をもって、圧倒的なパフォーマンスを体感できる製品を創造し、お客様がカワサキ製品とともに過ごすひとときに究極のエキサイトメントを提供し続け、心豊かな暮らしをお届けします。



パワースポーツ & エンジン(カワサキモーターズ株式会社)

レース活動



2019 鈴鹿8時間耐久ロードレース
26年ぶり2度目の優勝



2020 AMA スーパークロス選手権シリーズ
チャンピオン獲得



2020 WSBK6連覇を達成

スポーツ施設



オートポリスサーキット

健全なモータースポーツの普及の為、高度なライディング技術を見て楽しむ、あるいは自らスポーツ走行を体験する機会を提供しています。地域との共生を図りながら、国際規格サーキット「オートポリス(大分県)」等を所有しており、二輪、四輪のレースイベントや走行会を開催しています。また、自社製品の研究開発の場としても使用しています。



Ninja ZX-4RR



ELIMINATOR



MULE PRO-FXT EPS



KX450SR



JET SKI ULTRA 160LX



TERYX KRX 4 1000
※海外向けモデル

汎用ガソリンエンジン



最上位機種 of FX1000V EFI

カワサキモーターズはお客様の声を第一に考え製品開発に反映させる姿勢、確かな設計と厳しいテスト基準によって作り出される高品質なエンジンを60年以上提供してきた実績があります。

世界中で様々な作業機に搭載される当社の汎用ガソリンエンジンは、なかでも米国で芝刈を生業にする作業者から絶大な信頼を得ており、業界トップシェアを誇っています。



プロ向けの乗用芝刈機に搭載



厳しい検査をクリアして生産される

総合技術力で未来を拓く価値を創り出します。

川崎重工グループの将来にわたる企業価値向上に向けて事業部門のコア・コンピタンスのさらなる強化、「技術のシナジー」の活用も進めながら、競争力のある「新製品・新事業」の開発に、事業部門と本社技術開発本部が一体となって取り組んでいます。

これまで市場に提供してきた当社の優れた製品群について、それらの次期製品の競争力強化に貢献する技術開発を推進しています。また近年、市場環境・社会課題・技術革新など急速な変化が生じており、現有技術の延長線上の開発だけでは十分な競争力を維持できない可能性があります。このため現有コア・コンピタンスの一層の強化に加えて、将来の新たな価値観や社会課題を予測し、それらに対応する新たな技術開発にも積極的に挑んでいます。

新たな価値観・市場の出現

コロナ禍で加速

社会課題解決に向けた新しいソリューションの創出

安定成長を支える製品・事業の競争力強化

将来基盤技術の組み換え・強化

プロセスエンジニアリング

DX

知財・標準化



安全安心リモート社会



近未来モビリティ



エネルギー・環境ソリューション

「次の新製品・将来の新製品」に向けた技術開発

地球環境の保全やエネルギーの安定供給に対する社会的な要求の高まりと、資源国などの変化の激しい市場やそれにとまらぬ製品生産環境の急激な変化——。このようなダイナミックな動きに応えるため、川崎重工グループでは「次の新製品」に向けた技術開発、さらに将来の社会を思い描いて新たなニーズを予測した上で、次世代を支える「将来の新製品」に向けた技術開発を進めています。

「陸・空輸送システム」事業では、民間航空機やそのエンジンなどの航空宇宙システム製品および鉄道車両分野の製品、「エネルギー&マリンエンジニアリング」事業では、地域の多種多様なエネルギーニーズに応えるガスタービン・ガスエンジンをはじめとするエネルギー・プラント製品および船用推進・船舶海洋分野の製品、「モーションコントロール&モータービークル」事業では、資源国などにおけるインフラ整備や生産設備投資あるいは省人化に対応した油圧機器や産業用ロボットといった精密機械・ロボット製品およびモーターサイクル分野の製品などの広範な事業分野において、さまざまな市場ニーズに適した「新製品」を実現するために必要となる技術を、事業部門と本社技術開発部門が一体となって開発しています。

また、製品開発における課題解決の前倒しや設計段階での製品への付加価値のつくりこみ、あるいは先進的な生産・製造技術を設計段階から積極的に適用することで商品価値を向上するなどのプロセスエンジニアリングについても、事業部門の取り組みを強力に支援しています。

社会課題解決・顧客価値提供に向けた技術開発

川崎重工グループでは、「グループビジョン2030」で掲げた「安全安心リモート社会」、「近未来モビリティ」、「エネルギー・環境ソリューション」などの社会課題の解決に向けた取り組みや、新たな顧客価値を提供するソリューションイノベーションを進めています。

このため、新たな顧客価値創造の源となる「基盤技術」の育成・強化を進めるとともに、ICT/IoTやAIなどの最新のデジタル技術を活用し、製品メンテナンスなどのサービス事業の創出および収益力の強化に努めています。また、工場間やサプライチェーン全体を通じた生産設備のネットワーク化によるものづくり革新、バリューチェーン全体における業務プロセスの高度化による新ビジネスモデルの創出などについても、事業部門と本社技術開発本部が協力して取り組んでいます。

また、国のエネルギー基本計画に盛り込まれている「水素を本格的に活用する水素社会」の実現を見据え、水素の「製造」から「輸送・貯蔵」、「利用」までのサプライチェーンの早期構築に向けた技術開発を、国内外の政府機関や関連企業各社などと連携して取り組んでいます（P 7 - 8「Kawasaki Hydrogen Road」をご覧ください）。

充実したネットワークで 全国のお客様からの需要に応えています。

川崎重工は、東京と神戸の2本社体制をとり、技術開発拠点は明石工場（兵庫県明石市）内にかまえ、陸・海・空にわたる川崎重工グループの製品群は、関西、中部など各地に位置した工場で生み出されています。
また営業拠点は、北海道から沖縄まで全国に配置しています。



6
岐阜工場 (岐阜県各務原市)
●敷地面積: 726,000m²
●生産品目: 航空機、宇宙機器



7
名古屋第一工場 (愛知県弥富市)
●敷地面積: 222,000m²
●生産品目: 航空機



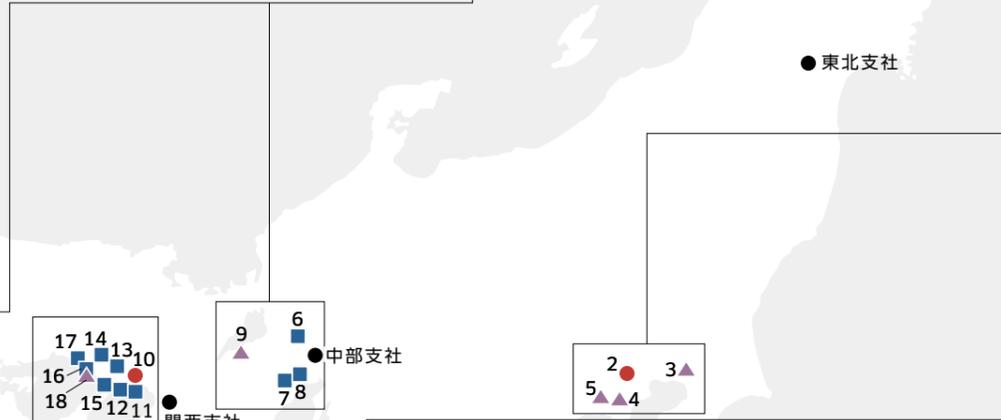
8
名古屋第二工場 (愛知県飛島村)
●敷地面積: 18,000m²
●生産品目: 航空機



9
川重冷熱工業(株) 滋賀工場 (滋賀県草津市)
●敷地面積: 130,000m²
●生産品目: 空調機(ナチュラルチラー)、汎用ボイラ



二重効用ナチュラルチラー
(Efficio NZ型)



●中国支社

●九州支社

●中部支社

●関西支社



19
坂出工場 (香川県坂出市)
●敷地面積: 911,000m²
●生産品目: 船舶・海洋機器

●沖縄支社



10
神戸本社



11
神戸工場 (神戸市)
●敷地面積: 360,000m²
●生産品目: 船舶、海洋機器、機械



15
明石工場 (兵庫県明石市)
川崎モーターズ(株)本社・本社工場
●敷地面積: 510,000m²
●生産品目: 航空機用エンジン、二輪車、ロボット、ガスタービン(艦艇用・産業用)



12
川崎車両(株)神戸本社 (神戸市)
●敷地面積: 220,400m²
●生産品目: 鉄道車両



16
播磨工場 (兵庫県播磨町)
川崎車両(株)播磨工場
●敷地面積: 445,000m²
●生産品目: エネルギー・環境設備、鉄道車両、船用機械、その他



13
西神戸工場 (神戸市)
●敷地面積: 282,000m²
●生産品目: 油圧機器・装置、機電製品、クリーンロボット



17
川崎モーターズ(株)加古川工場 (兵庫県加古川市)
●敷地面積: 51,000m²
●生産品目: 二輪車用エンジン部品、その他



14
西神戸工場 (神戸市)
●敷地面積: 100,000m²
●生産品目: 航空機用エンジン、ガスタービン部品



18
川崎油工(株) (兵庫県明石市)
●敷地面積: 36,400m²
●生産品目: 油圧プレス・船用舵取機・その他油圧機器・装置



3
(株)アーステクニカ 八千代工場 (千葉県八千代市)
●敷地面積: 140,000m²
●生産品目: 破砕機、環境関連機器、粉砕機、耐摩耗鋼製品



4
日本飛行機(株) 横浜工場 (横浜市)
●敷地面積: 151,600m²
●生産品目: 航空機、宇宙機器



5
日本飛行機(株) 厚木工場 (厚木市)
●敷地面積: 67,900m²
●機能: 航空機整備、改修



1
(株)NICHIGO 曙工場・稲穂工場 (札幌市)
●敷地面積: 50,000m²
●生産品目: 除雪機械、重量物運搬車、その他



ロータリ除雪車 HTR408



2
東京本社
川崎車両(株)東京本社
川崎モーターズ(株)東京事務所

世界市場に多種多様な製品を送り出す、グローバルネットワーク。

川崎重工グループでは、モーターサイクルをはじめ、鉄道車両、油圧機器、汎用ガソリンエンジン、船舶、船用機械の各分野で本格的な海外生産を行っており、その充実したネットワークを通じて製品を世界各地に送り出しています。

2002年、鉄道車両一貫製造工場を米国ネブラスカ州リンカーンに、さらに近年では船用機械、油圧機械などの生産拠点を中国・インドに建設しました。

1975年、わが国の二輪車・四輪車業界のトップを切って、アメリカでの現地生産を始めたKawasakiモーターサイクル——そのチャレンジ精神とノウハウは、他分野の海外展開にも大いに活かされています。



社会と未来につながる貢献の輪を広げます。

川崎重工グループは、グループミッション「世界の人々の豊かな生活と地球環境の未来に貢献する"Global Kawasaki"」に基づき、事業活動を通じて持続可能な社会の実現を目指しています。グローバルな社会課題を積極的に認識し、グループのシナジーとイノベーションにより、国連が提唱するSDGs(Sustainable Development Goals「持続可能な開発目標」)にも貢献していきます。

また、ステークホルダーからの期待に応え、社会から信頼されつづける企業であるために、サステナビリティ活動を推進しています。

社会貢献活動については、グループの強みと従業員一人ひとりのちからを活かしながら、地域社会の存続・発展への寄与、未来のテクノロジーを担う次世代の育成、および環境保全への貢献に重点を置いて、さまざまな活動を展開しています。



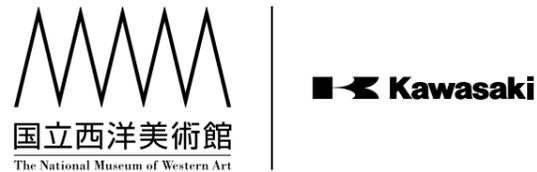
さまざまな分野で、社会貢献を続けていきます。



実験工作教室による次世代育成支援活動

川崎重工では、子どもたちの科学やものづくりへの関心を喚起するため、自社製品を基にした実験工作教室を各地で実施しています。

実験工作教室では、従業員がコーチ役となり、「学ぶ」「つくる」「楽しむ」「工夫する」をキーワードに、子どもたちが製品に関連する理科の知識を楽しみながら学べるよう工夫を凝らしています。子どもたちに「技術の素晴らしさ」と「ものづくりの大切さ」を伝えることで、未来のテクノロジーを担う次世代の育成につなげていきたいと考えています。



国立西洋美術館との オフィシャルパートナー契約

2023年3月、国立西洋美術館とオフィシャルパートナー契約を締結しました。国立西洋美術館には、川崎造船所(現・川崎重工)の初代社長・松方幸次郎が収集した「松方コレクション」が多く収蔵されています。

今後は、パートナーシップを通じて、多くの人々に広く美術に触れる機会を提供することで、「アートの力を活かした豊かな社会づくり」を目指していきます。

カワサキワールド Kawasaki GoodTimes World



カワサキワールドは、神戸にある川崎重工グループの企業ミュージアムです。代表的な製品を「見て」「触れて」いただくとともに、楽しく学びかつ遊びながら「技術のすばらしさ」と「ものづくりの大切さ」を実感していただくことを目指しています。



Kawasaki Robostage



Kawasaki Robostageは、東京・お台場にあるロボットのショールームです。川崎重工が持つロボット分野の最先端の技術とノウハウを見て触れて体験してください。「人とロボットの共存・協調の実現」をコンセプトとした、新製品のロボットをいち早く見ることのできる空間です。



Future Lab HANEDA



Future Lab HANEDAは、東京・羽田空港に隣接する羽田イノベーションシティ内にあるオープンイノベーション拠点です。スタートアップや研究機関を対象としたラボスペース「YouComeLab」、調理・配膳などレストランの作業をすべてロボットで行うことを目標とした実証実験スペース「AI_SCAPE」で構成されています。



「私たちはカワる、そのサキにむかって挑戦する」という想いと「社会がカワっていく、その一歩サキへ」という意志を込めて今後も社会的価値を提供していきます。



facebook

オフィシャルFacebookページとして、ニュースやイベントの紹介など、川崎重工グループにまつわる様々なトピックを発信していきます。



ANSWERS

社会課題と向き合う川崎重工グループの技術や取り組みを、わかりやすく紹介するWEBメディアです。



Corporate Data

創業	1878年(明治11年)
創立	1896年(明治29年)
資本金	1,044億円(2023年3月31日現在)
従業員数(連結)	38,254人(2023年3月31日現在)
連結売上高	17,256億円(2023年3月期)
連結子会社数	104社(2023年3月31日現在)

東京本社
〒105-8315 東京都港区海岸1丁目14番5号 Tel. 03-3435-2111 Fax. 03-3436-3037
神戸本社
〒650-8680 兵庫県神戸市中央区東川崎町1丁目1番3号(神戸クリスタルタワー) Tel. 078-371-9530 Fax. 078-371-9568

以下に列挙するものは川崎重工工業株式会社又はカワサキモーターズ株式会社の登録商標です。
[K-RACER]、[K-RACER]ロゴ、[U-KACC]、[MAGターボ]、[MAG TURBO]、[MAG Turbo]ロゴ、[GREEN/グリーン]ロゴ、[レックスペラ]、[K-ECOS]、[ECO SERVO]、[duAro]、[duAro]ロゴ、[NINJA]、[Ninja]ロゴ、[ZX]ロゴ、[KX]ロゴ、[ELIMINATOR]、[ジェットスキー]、[Jet Ski]、[JET SKI]ロゴ、[MULE]、[MULE]ロゴ、[TERYX]ロゴ、[AUTOPOLIS]、[Robostage]



[hinotori™]は株式会社メディカロイドの登録商標です。